

彙 報

昭和 53 年度第 1 回常任委員会

日 時：4 月 22 日（土）午後 2 時～5 時

場 所：京都産業大学内，本学会事務局

出席者：泉井久之助（会長），国広哲弥，田村すゞ子，徳永康元，小泉 保，
堀井令以知，松田伊作（地域順）

オブザーバー：岩本 忠（事務局主務者）

欠席者：加藤正信，矢島文夫（委任状あり）

- 議 事：1) 第 76 回大会（6 月 3 日，4 日早稲田大学）のプログラムを作成，
司会者を決定。
- 2) 第 77 回大会は，10 月 14 日，15 日の両日，関西外国語大学で開催することを企画。
- 3) 昭和 54 年度第 78 回大会を東京都立大学で開催することを企画。
- 4) 昭和 52 年度決算について会計監査の結果を報告。
- 5) 昭和 53 年度予算案を検討。
- 6) 昭和 50 年度以前の会費滞納者の処置について。
- 7) 本会への受贈図書処理について。
- 8) 交換図書の申し込みについて対処。
- 9) 次期の常任委員・編集委員長選挙権者について検討。
- 10) 次期選挙事務の円滑化のため，11 月末に会員名簿を発行，会費完納を 11 月末までとして選挙を実施できるよう，選挙規則の改正を検討し，委員会にはかることになった。

昭和 53 年度第 1 回委員会

日 時：6 月 3 日（土）午前 10 時 30 分～午後 12 時 10 分

場 所：早稲田大学大隈会館 3 階 3 号室

出席者：泉井久之助（会長）、池上二良、石綿敏雄、井上史雄、奥津敬一郎、加藤正信、川本茂雄、岸本通夫、北村 甫、木村彰一、国広哲弥、小泉 保、江 実、佐藤則之、柴田 武、下宮忠雄、鈴木孝夫、関本 至、竹内和夫、田中克彦、田村すゞ子、塚本 勲、徳永康元、野元菊雄、平山輝男、蛭沼寿雄、堀井令以知、松田伊作、村山七郎、矢島文夫（以上 30 名）

オブザーバー：服部四郎（副会長）、大東百合子、日下部文夫（以上会計監査委員）、岩本 忠（事務局主務者）

欠席者：（委任状提出）

梅田博之、大江三郎、北嶋静江、金田一春彦、W・A・グロータース、河野六郎、五島忠久、阪倉篤義、佐藤 茂、辻直四郎、徳川宗賢、中島文雄、西田龍雄、野村正良、長谷川欣佑、長谷川松治、林 栄一、日野資純、藤原与一、三宅 鴻、山口秀夫、吉川 守、吉町義雄（以上 23 名）

欠席者：（委任状なし）

池上禎造、井上和子、岩井隆盛、岩倉具実、上村幸雄、大江孝男、大野 晋、風間喜代三、小林英夫、崎山 理、佐藤喜代治、新村 猛、千野栄一、寺村秀夫、橋本萬太郎、林 大、原田信一、松本克己、三根谷徹（以上 19 名）

報告および議事：

- 1) 昭和 52 年度第 2 回委員会の議事録を承認した。
- 2) 常任委員選挙結果を報告。
- 3) 昭和 53 年度第 1 回常任委員会（4 月 22 日）の報告。
- 4) 第 77 回大会は 10 月 14 日、15 日の両日、関西外国語大学で開催することを決定。大会運営委員長に吉町義雄氏を委嘱することを承認。
- 5) 昭和 54 年度第 78 回大会は 6 月 2 日、3 日の両日、東京都立大学で開催することを決定。

- 6) 昭和52年度決算を承認。(別表A「決算表」参照)
- 7) 昭和53年度予算を決定。(別表B「予算表」参照)
- 8) 選挙規則、選挙細則の一部をそれぞれ次のように改正した(下線部が改正箇所)。

選挙規則 1

会長、会計監査委員、委員は、選挙のある年の前年11月末発行の会員名簿により、所定の手続きによって、個人会員の互選により選出する。

選挙規則 5

各地区の委員の定数は、前記11月末発行の会員名簿による当該地区在住の個人会員数の按分比例によって定める。

選挙細則 注1)の3

当年度の会費をその年度の11月末日までに完納していない通常個人会員。

選挙細則 注2)の3

当年度の会費をその年度の11月末日までに完納していない通常個人会員。

選挙細則のただし書き

ただし、会長事務局は会費未完納者に対し、未納額をその年度の10月中に通知するものとする。

- 9) 次期常任委員、編集委員長の選挙は次期選出の委員が行なうことを承認。
- 10) 昭和50年度以前からの会費滞納者については昭和53年4月1日付で退会とみなし、再入会のときは未納分を納入した者に限り入会を認めることになった。
- 11) 交換図書の処置について検討。
- 12) 受贈図書の受け入れ先については、次の委員会で検討することになった。
- 13) 文部省科学研究費補助金の第一段審査委員を改選。当選者：柴田

武。

14) 九学会連合代表理事を改選。当選者：江 実。

別表A 昭和52年度 日本言語学会会計決算表

自昭和52年4月至昭和53年3月

(円単位)

収 入		支 出				
科 目	金 額	科 目	金 額			
A	前期繰越	2,470,626	1	刊行費	1,510,404	
B	会 費	2,863,882	2	編集費	80,225	
C	雑誌売上	220,050	3	発送費	216,657	
D	文部省補助金	410,000	4	大会関係費	403,380	
E	預金利息	61,314	5	委員会費	5,409	
/		6	常任委員会費	226,012		
		7	九学会連合会費	30,000		
		8	CIPL負担金	47,068		
		9	選挙関係費	80,160		
		10	通 信 費	114,260		
		11	事 務 費	174,948		
			{ a 事務用品費	93,708		
			{ b 印刷費	31,820		
			{ c 交通費	49,420		
		12	事務所賃借料	60,000		
		13	事務局職員謝金	377,750		
		14	予 備 費	0		
		15	雑 費	71,595		
		16	次期繰越	2,628,004		
		計		6,025,872	計	6,025,872

収 入 内 訳		支 出 内 訳	
B. 会費	1. 現金等	577,183	
	2. 郵 振	2,085,500	
	3. 銀 振	201,199	
	1. 刊 行 費		{ 72 号 814,197 { 73 号 696,207
	3. 発 送 費		{ 72 号 104,336 { 73 号 112,321
	4. 大会関係費		{ 第74回 (東女大) 194,100 { 第75回 (京外大) 208,770
	12. 事務所賃借料		60,000
		(5,000 円 × 12 ヶ月)	

第76回大会

期 日：昭和53年6月3日(土)・4日(日)

会 場：早稲田大学7号館 小野講堂

第1日(6月3日)

開 会 の 辞

講 演 (午後1時30分～3時30分)

三宅 鴻「色彩語彙と言語普遍性」

島岡 茂「ロマン言語学の課題」

会員懇親会(午後6時より)

大隈会館3階1・2号室

会 費 3,000 円

第2日(6月4日)

研 究 発 表 (午前10時～11時30分)

1) 「日本語をさかのぼるために一共時的法則の有効性について」

平野 尊識

2) 「Sigmatik について一記号論理の流れの一点」

平川 信弘

3) 「ミクロネシアの言語の所有表記」

崎山 理

定例会員総会(午後1時～1時30分)

研 究 発 表 (午後1時30分～3時)

別表B 昭和53年度 日本言語学会予算表

自昭和53年4月至昭和54年3月

(円単位)

収 入		支 出			
科 目	金 額	科 目	金 額		
A	前期繰越	2,628,004	1	刊行費	2,000,000
B	会費	3,102,925	2	編集費	100,000
C	雑誌売上	100,000	3	発送費	300,000
D	文部省補助金	410,000	4	大会関係費	500,000
E	預金利息	60,000	5	委員会費	20,000
		6	常任委員会費	350,000	
		7	九学会連合会費	30,000	
		8	CIPL負担金	50,000	
		9	選挙関係費	625,000	
		10	通信費	150,000	
		11	事務費	250,000	
		12	事務所賃借料	60,000	
		13	事務局職員謝金	650,000	
		14	予備費	500,000	
		15	選挙関係等 準備積立金	600,000	
		16	雑費	115,929	
計		6,300,929	計		6,300,929

4) 「El Conde Lucanor における文法的揺れ」

有吉 俊二

5) 「印欧語の語構成における共感覚的要素」

永野 芳郎

6) 「西カロリンの空間と時間」

日下部文夫

特別講演 (午後3時~4時)

C. C. PENG (パン) 「Sound Change and Language Change」

A Sociolinguistic Overview (講演用語日本語)

第76回大会運営委員長 古川 晴風

受贈図書リスト (昭和53年2月1日～昭和53年5月31日)

- アカデミア・リテラリア Vol.1 (法友文学語学研究会 1978, 3)
- カナノヒカリ Nos. 666-669 (カナモジカイ 1978, 2-5)
- 計量国語学 Vol. 11, No. 4 (計量国語学会 1978, 3)
- 言語文化研究 IV (大阪大学言語文化部 1978, 3)
- 考古学雑誌 Vol. 63, No. 4 (日本考古学会 1978, 3)
- 甲南大学紀要 文学編 26 (甲南大学 1978, 3)
- 語学研究 Nos. 13 ; 14 (拓殖大学語学研究所 1978, 2 ; 3)
- 国語学 第112集 (国語学会 1978, 3)
- 国語学研究 No. 17 (東北大学文学部「国語学研究」刊行会 1977, 12)
- 国立民族学博物館研究報告 Vol. 2, No. 4 ; Vol. 3, No. 1
(国立民族学博物館 1977, 12 ; 1978, 3)
- 金沢大学大学院文学研究科研究論集 Vol. 3
(金沢大学大学院文学研究科研究論集刊行会 1977, 2)
- 史 苑 Vol. 38, No. 1・2 (立教大学史学会 1978, 3)
- 宗教研究 Vol. 51 第4輯 (日本宗教学会 1978, 4)

- 逐次刊行物目録 昭和50年版 (国立国会図書館 1977, 12)
- 朝鮮学報 第86輯 (朝鮮学会 1978, 1)
- 通信 No. 32 (アジア・アフリカ言語文化研究所 1978, 3)
- 東方学 Vol. 55 (東方学会 1978, 1)
- 東方学会報 No. 33 (東方学会 1978, 3)
- 日本学士院紀要 Vol. 34, No. 3 (日本学士院 1977, 4)
- 日本学術会議月報 Vol. 19, Nos. 1-3 (日本学術会議広報委員会 1978, 1-3)
- 日本語学校論集 No. 5 (東京外国語大学外国語学部附属日本語学校 1978, 3)
- 日本常民文化紀要 第4輯 (成城大学大学院文学研究科 1978, 2)
- 日本民俗学 No. 115 (日本民俗学会 1978, 3)
- フランス語図書目録 改訂増補版 (京都外国語大学付属図書館 1978, 2)
- 放送文化 '78 3月号—5月号 (日本放送出版協会 1978, 3-5)
- 民族学研究 Vol. 42, Nos. 3 ; 4 (日本民族学会 1977, 12 ; 1978, 3)
- 月刊 みんぱく '78 2月号—5月号 (国立民族学博物館 1978, 2-5)
- 山口大学文学会志 Vol. 28 (山口大学 1977, 11)
- Acta Asiatica* (Bulletin of the Institute of Eastern Culture) 34
(東方学会, 1978)
- Archiv Orientalní (ArOr)* Vol. 46, No. 1 (Academia, Praha, 1978)
- Bulletin d'Analyses de la Litterature Scientifique Bulgare*, No. 1
(Academie Bulgare des Sciences, Sofia, 1977)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. XLI,
Part 1 (University of London, 1978)
- Commentationes Humanarum Litterarum* 53, 58
(Societas Scientiarum Fennica, Helsinki, 1977)
- Current Contents of Academic Journals in Japan 1976*
(学術誌刊行センター 1978, 3)
- Die Sprache* (Zeitschrift Für Sprachwissenschaft), 23, 1 ; 2
(Institut für Sprachwissenschaft der Universität Wien), 1977
- Мовознавство 66 (No. 6, 1977) ; 68 (No. 2, 1978)

(Наукова думка, Київ)

Náš Řeč: Ústav pro Jazyk Český, ročník 60, číslo 5, 1977

(Akademia nakladatelství Československé akademie věd)

Philologia No. 10

(三重大学外国語研究会, 1978, 3)

Русский язык в школе, Nos. 1 ; 2

(Просвещение Москва, 1978)

Slovo a Slovesnost, ročník XXXVIII, číslo 4, 1977 ; ročník XXXIX,

číslo 1, 1978

(Československá Akademie věd)

Studia Phonologica XI

(京都大学音声科学総合研究部会, 1977)

Вестник Ленинградского университета (История-Язык-Литература)

No. 2

(Ленинград, 1978)

VUORELA, Toivo: *Ethnology in Finland Before 1920*, Helsinki, 1977

Wissenschaftliche Zeitschrift der Wilhelm-Pieck-Universität

Rostock, Jahrgang XXV, Heft 10, 1976, Jahrgang XXVI, Heft

2 ; 3 ; 4 ; 5 ; 6 ; 7, 1977

(Rostock, DDR)

追 記

会員各位

本会事務局所在の京都産業大学におきましては総長荒木俊馬博士が、はからずも本年、去る7月10日夕刻、享年81歳をもって、にわかに逝去されました。かねてより本会に対して大きい好意を示しておられました同博士は、本会事務局の開設に際してのみならず、以後の運営におきましても、事務的・財務的に常に協力を惜しまれず、本会事務局はこれにより、幸いに今日まで大過なく事務的運営を果してまいりました。現下、同博士の御急逝は、本会にとりましても痛恨のきわみに存じます。謹んで哀悼の意を表し、かねて謝意をあらわしたく、急遽、本会常任委員各位と相はかり、7月22日、京都相国寺における御本葬に際しましては、本会の名において供花の一部を奉獻させていただきました。ご報告いたしますとともに、同博士のご冥福を祈りあげたく存じます。(会長 泉井久之助)

第七十二号 訂正表

	誤	正
p. 48, l. 31	from Original Languages	from the Original Languages
p. 49, l. 3	5.0 Footnotes	(to be deleted)
p. 49, l. 12	poly-	Poly-
p. 49, l. 14	Padiminium	Pandemonium
p. 49, l. 27	that that	that
p. 54, l. 3	Lisepaep	Lisepsep
p. 56, l. 8	i mekem olsem, long	i mekem olsem / long
p. 58, l. 10	S-32 : karem	S-32 : # karem
p. 59, l. 7	fnished	finished
p. 59, l. 25	blng	blong
p. 61, l. 2	S-58 : so	S-58 : # so
p. 63, l. 3	S-80 : yufala	S-80 : # yufala
p. 67, l. 17	/bifo//	/bifo/
p. 67, l. 30	comletely	completely
p. 68, l. 2	ofi	off
p. 70, l. 24	naturalized	neutralized
p. 71, l. 8	is	are
p. 72, l. 25	the Predicate marker	the Predicate Marker
p. 77, l. 4	at, 'in	at, in
p. 80, l. 29	'There was a (creature	'There was a certain (creature
p. 84, l. 2 r	all every	all, every
p. 84, ll. 27, 28 & 29 r		(not to be indented)
p. 85, l. 23 r	(exclusive)	(inclusive)
p. 86, l. 9	Port Vila the	Port Vila, the

第七十三号 訂正表

誤 正

p. 3 図1の凡例	◇	イカナシダ ² [ikanaʃida]	消去
p. 3 図1の地図	◇		▲
p. 9 図2の縮尺		1 : 1500,000	消去
p. 16 上から11行目		「イカンダッタが	「イカンダッタ」が
p. 16 下から3行目		ikada	ikanda
p. 17 下から8行目		のイカンダッタとは	の「イカンダッタ」とは
p. 98 4行目 (委員会出席者)			

堀井令以知, 村山七郎, 矢島文夫, 山口秀夫 (以上4名追加)

◇ 物故会員

兼弘 正雄 (4月7日逝去); 小林 淳男 (5月5日逝去); 小林 英夫 (東京都, 10月5日逝去)。

◇ 本誌は文部省昭和53年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものである。